

アクションプラン１：観光資源、拠点施設を結ぶネットワークづくり

別紙 2-2

破線は実践箇所実施後に取り組むもの。		短期			中期	
		R3(2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
A．個別観光拠点の強化		インフォメーションセンターの機能強化 宿泊・交流拠点の整備（COASA） 空き家等の新たなマッチングの仕組みづくり	物産販売拠点の確保	温泉宿泊施設の再整備	空き店舗等を活用した回遊・交流・宿泊拠点の拡充 民間に売却されなかった場合	
B．美里めぐりのモデルルート化と商品化			各種モデルルートの作成と商品化検討（モニターツアー等）			
C．モデルルートの環境整備と情報発信				二次交通の拡充、案内サインの拡充、修景等 若手ガイドの育成、サイクル等向けの環境整備等 モデルルートの情報発信、ガイドツアー等のオンライン受付等		
D．町民が美里の魅力を 知る機会の創出				モデルルートの町民向けツアーの実施と情報発信		
主体別 アクション	町（行政）	・インフォメーションセンターの拡充支援 ・宿泊・交流拠点の事業化支援	・物産販売拠点の確保	・回遊・交流・宿泊拠点の拡充支援 ・温泉宿泊施設の改修または建て替え 民間に売却されなかった場合 ・二次交通の拡充、案内サインの拡充、修景、サイクル等向けの環境整備		
	観光協会	・インフォメーションセンターの機能等見直し	・各種モデルルートの作成と商品化	・若手ガイドの育成、モデルルートの情報発信、ガイドツアー等のオンライン受付 ・町民向けツアー企画・実施	・町民向けツアーの継続的な実施	
	振興公社		・物産販売拠点検討		・物産販売拠点の運営	
	その他関連団体 民間事業者 町民	・宿泊・交流拠点の運営 ・空き家等の新たなマッチングの仕組みづくり	・モデルルートの作成・商品化検討への参加 ・魅力発掘作業等への参加	・宿泊・交流拠点の運営継続、新たな拠点運営への参加 ・ツアー参加、レポート発信		
備考		新鶴温泉耐用年数	只見線全線開通 博士トンネル開通			あやめの湯耐用年数

A．個別観光拠点の強化

基本的な受け入れ基盤である、インフォメーションセンター、物産販売施設、宿泊施設等の観光拠点について充実・整備し、さらに、空き店舗等の活用により、回遊・交流拠点を増やし、エリアの魅力を高めていく。

- ・インフォメーションセンターの機能・サービスの強化
- ・野菜や特産品などの物産販売拠点の確保（空き店舗の活用、既存施設への併設、移動販売等）
- ・宿泊・交流拠点の整備（ゲストハウス COASA）
- ・温泉施設の再整備
- ・空き店舗等を活用した回遊・交流・宿泊拠点の拡充
- ・観光拠点のネットワーク拡充、高田門前町などまち歩きエリアのネットワークの充実
- ・空き家の新たなマッチングの仕組みづくり

B．美里めぐりのモデルルート化と商品化

既存のモデルルートを見直し、会津美里の資源や魅力を活かした新旧の主要テーマを設定し、資源の掘り起こしと深掘りをしながら、ターゲットを想定したモデルルートを作成する。その上で、モニターツアーの実施等により検証を繰り返しながら、商品化する。

- ・主要テーマに基づく資源の掘り起こしと、ターゲットを想定したモデルルートの作成
＜テーマ例＞
- ・知られざる魅力の発掘と体験プログラム
- ・グリーンクラフトツーリズム（焼物+ワイナリー・農の景観）
- ・アウトドア・キャンプ
- ・歴史資源の濃い体験（仏都会津、中世の歴史資源、伊佐須美神社を中心に）
- ・自転車めぐりルート
- ・モデルルートの商品化（モニターツアーの実施と検証）

C．モデルルートの環境整備と情報発信

モデルルートの作成、商品化を進めながら、必要な設備やサービス等を確認し、整備する。また、作成したモデルルートはホームページ等で発信、活用し、将来的には商品化したガイドツアーのオンライン受付（販売）を行う。

- ・ハード整備関連：二次交通（シェアサイクル、デマンド交通など）の高度化、案内サインの拡充、修景
- ・ソフト対策：若手を含めたガイドの育成・待遇改善、サイクリスト・サイクリング向けの環境整備、回遊に必要な情報提供（スマホ対応等）
- ・情報発信等：モデルルートのホームページ等での情報発信・活用、ガイドツアー等オンライン受付（商品化後）運営体制

D．町民が美里の魅力を 知る機会の創出

新たな資源の発掘や、モデルルートの町民向けツアーへの参加を通じて、町民が町の魅力を直に再認識する機会を創出したり、また、そのツアーレポートを観光百人衆が発信するなど、観光事業への町民の参加機会を増やすことで、町の誇りの醸成とともに、来訪者へのおもてなしの意識を高める。

- ・知られざる魅力の発掘作業や文化財活動への参加
- ・モデルルートの町民向けツアーの実施
- ・ツアー結果の情報発信（百人衆等）

アクションプラン2：イベントから滞在につなげていく観光商品開発

破線は実践箇所実施後に取り組むもの。		短期			中期	
		R3(2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
A．町民参加型の実行委員会によるイベント実施			新体制による実験的なイベント企画・実施（例：ワイン祭り）	モデルケースの見直しと、他のイベントにおける展開		
B．既存イベントを活かした日帰り・滞在おもてなしプログラムの開発			1-B(モデルルート)の検討を活かす	イベント+ミニツアーや体験プログラムの開発・試行実施と商品化、情報発信		継続的な実施（PDCA）
C．農と食を活かした商品づくり			盆地のご馳走研究会(仮)でのメニュー開発	継続的な実施（PDCA）		
		特産品の開発と販路開拓、情報発信				
D．分散型宿泊と、温泉、ダイニング、お土産処が連携したおもてなし（まちやど拡大版）		本郷地区における宿泊・交流拠点の整備（1-A）			空き家等を活用した宿泊施設と地域ぐるみの運営	
主体別アクション	町（行政）		・企画・実施支援			
		・六次化支援（講習会の開催、六次化コンシェルジュによる支援）				
	観光協会		・実行委員会の体制づくり、企画・実施	・他のイベントにおける展開（PDCA）		
			・盆地のご馳走研究会(仮)でのメニュー開発	・ミニツアーや体験プログラムの開発・試行実施と商品化、情報発信		・継続的な実施（PDCA）
				・研究会の継続的な活動（PDCA）	・提供開始・情報発信	・継続的な情報発信（PDCA）
振興公社	・地域商社による特産品開発と販路開拓（Eコマース、町内における販路含む）					
その他関連団体 民間事業者 町民		・企画段階からの参加		・プログラム等の開発・商品化への参加		
		・研究会への参加	・継続的な参加（PDCA）			
		・六次化による特産品開発				
					・宿運営への参加、連携によるおもてなしへの協力、参加	
備考		新鶴温泉耐用年数	只見線全線開通 博士トンネル開通			あやめの湯耐用年数

A．町民参加型の実行委員会によるイベント実施

（あやめ祭り、ふれあい茶会、せと市、ワイン祭り、大俵引き等）

運営側の高齢化等の課題を抱える既存の一部のイベントについて、企画段階から町民が参加する新たな実行委員会形式により運営し、若い世代や事業者が参加し、楽しめるイベントへ刷新することで、文化の継承と地域経済への貢献を図る。

- ・企画段階からの町民参加によるイベントの刷新
- ・企画運営のモデルづくり（例えば、10月ワイン祭りから）見直しつつ拡大
- ・実行委員会の体制づくり

B．既存イベントを活かした日帰り・滞在おもてなしプログラムの開発

Aの取り組みと並行し、モデルルートを活用により、イベントと合わせたミニツアーや体験プログラムなどを提供し、イベントから町内への回遊を促し、滞在時間をのばす。また、イベントやミニツアー等の情報発信の際には、来訪者が関心を持ちそうな関連トピックも積極的に発信し、来訪や回遊の動機付けをおこなう。

- ・イベント+ミニツアーや体験プログラムの開発と試行実施と商品化（1-Bの美里めぐりのモデルルートの活用）
- ・イベントおよび商品等の利用者目線による情報発信（動機付けになる情報発信）

C．農を活かしたと食の体験と商品づくり

会津美里町の特性である農を活かし、滞在中の食の楽しさを提供する。町内で食して頂くメニュー、およびお土産等の特産品を開発する。また県内、近隣との連携プロジェクトへの参加等により、食の魅力や発信力を高める。

- ・商品開発
美里で食べる...盆地のご馳走研究会（仮）でのメニュー開発（特A米、野菜、果物、日本酒・ワイン等の活用、美食）
町民による料理指導と試食
買う・公社や農家、民間事業者等による商品開発
農家への六次化支援の強化、特区活用等）
- ・販路開拓（Eコマース、町内における販路含む）と情報発信（ワインや日本酒、美食などの県内連携）

D．分散型宿泊と、温泉、ダイニング、お土産処が連携したおもてなし

（会津美里まちホテル(仮)...まちやど拡大版/アルベルゴ・ディフューゾ）

本郷地区で進行中の空き店舗を活かした宿泊交流拠点をモデルケースに、町内に拡充すると共に、町内の温泉、飲食店、物販施設、各種体験プログラム等の関係者との連携により、各種サービスをワンストップで提供する体制を構築する。

- ・空き家等を活用した宿泊施設と地域ぐるみの運営
- ・コンシェルジュ機能とコーディネート組織

【アルベルゴ・ディフューゾ（分散型ホテル）】町全体をホテルと見立てて、空き家等を活用した宿泊施設を核に、レストラン、アクティビティ等様々なサービスを地域ぐるみで提供することで、町をまるごと活性化しようというイタリア発の事業。

アクションプラン3：関係人口から観光・交流人口（観光・交流人口から関係人口も）につなげるきっかけづくり

破線は実践箇所実施後 に取り組むもの。		短期			中期	
		R3(2021)	R4（2022）	R5（2023）	R6（2024）	R7（2025）
A．外部サポーター組織 の立ち上げと交流プログ ラムの開発		外部サポーターへの 定期的な情報提供	観光大使の任命、サ ポーターへの物販や 交流事業の実施	継続的な実施（PDCA） サポーターの拡大		
B．入り口となる情報発 信の拡充		利用者目線によるポ ータルサイト等の再 整備とタイムリーな	継続的な情報発信（PDCA）			
			認知度向上と購買、来訪につながるコ ンテンツ開発	体験等の販売サイ トの構築	継続的な実施 （PDCA）	
		観光百人衆の気運 醸成の機会づくり とメンバー増強	機運醸成の機械づくりとメンバー増強の継続			
C．これらの事業を推進 するための連携による体 制づくり		関係者の連携による推進体制の構築	連携体制によるプロジェクトの推進、調整、進行管理			
		観光関連のデータ・ニーズ分析				
主 体 別 ア ク シ ョ ン	町（行政）	・ポータルサイト等再整備 への協力・支援	・コンテンツ開発への協力・支援			
		・観光百人衆関連事業の推進		・運営体制の見直し		
		・推進体制の構築支援、データ収集への協力・支援				
	観光協会	・外部サポーターへの 情報発信	・観光大使の任命 ・交流事業の実施	・継続的な実施（PDCA） ・サポーターの拡大		
		・ポータルサイトの 再整備と発信の 体制づくり	・認知度向上と購買、来訪につながる情報 発信とコンテンツ開発	・体験等の販売サイ トの構築	・継続的な実施 （PDCA）	
		・推進体制の構築 ・データ・ニーズ分析	・連携体制によるプロジェクトの推進、調整、進行管理		・DMOの構築 ・広域連携プロジェクト	
	振興公社	・外部サポーター形成に向けた支援、物販対応				
	その他関連団体 民間事業者 町民		・交流事業等への協力			
		・コンテンツ開発への協力				
		・観光百人衆への参 加	・観光百人衆の観光関連事業への参加		・継続的な活動	
		・推進組織への参加、協力				
備考		新鶴温泉耐用年数	只見線全線開通 博士トンネル開通			あやめの湯耐用年数

A．外部サポーターの形成

会津美里町に縁のある町外在住者を当面の対象に、定期的な情報提供、旬の物販情報や、交流・体験イベント、モニターツアーの案内などにより、町の観光交流事業に関わって頂くほか、これらの中から発信力のある方を対象に町の観光大使を担っていただき、町の応援団を形成する。

- ・外部サポーターへの、町の旬の魅力が詰まった定期的な情報の提供（当面は、出身者、リピーター、業務関係者などを対象。旬の物販情報や、交流・体験イベント、モニターツアーの案内を発信。）
- ・観光大使の任命（会津美里町のPR活動への協力）

B．入り口となる情報発信の拡充

基本的な観光施設や旬の情報を発信するポータルサイトについては、利用者の視点を重視し、関連ホームページとのネットワークにより再構築すると共に、関係者との連携を密にし、旬の情報をタイムリーに発信する体制を構築する。その上で、ターゲットに応じた外部バナー広告やPRの展開、バーチャルコンテンツの作成、発信などにより、インバウンドも視野に入れながら、認知度向上を図ると共に、購買、来訪につなげる。また、将来的には体験プログラム等の販売サイトを構築する。

観光百人衆については、講習会や町の観光事業への参加により、メンバーのモチベーションを上げ、増員を図るほか、より柔軟性のある活動を目指し運営体制の見直しを図る。

- ・利用者目線によるポータルサイト等の再整備とタイムリーな発信
- ・認知度向上と購買、来訪につながる情報発信
ターゲットに応じた外部バナー広告やPR
町の魅力を発信するバーチャルコンテンツ等の開発
インバウンドへの対応も視野に
- ・物販、周遊・体験プログラム等の販売サイトの構築
- ・観光百人衆の拡充
メンバーの気運醸成の機会と人員増強（講習会等の開催、「＃会津美里の日々」の積極的活用
百人衆メンバーの観光関連事業への参加（イベントやモニターツアー等に参加してレポート）
運営体制の見直し（民間へ）

C．これらの事業を推進するための連携による体制づくり

法人化する観光協会および関係者の連携により、観光関連事業の推進体制を構築し、協働、連携によるDMO機能の構築の達成を目指す。

- ・観光協会および関係者の連携による推進体制の構築
分野別チームによる具体的な検討と事業推進
＜目指すべき主なDMO機能＞
- ・観光関連のデータ・ニーズ分析
- ・プロデューサー人材、プレイヤーの育成
- ・情報発信、販売促進
- ・プロジェクトの企画、推進、調整、進行管理
- ・ワンストップ窓口
- ・特定テーマによる広域連携プロジェクト（例：自転車、食とお酒・ワイン等）